

令和 5 年度
運営に関する計画



大阪市立高倉小学校

令和 5 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、学校教育目標を本年度「『ともに幸せに生きる力』を育てる」と変更し、「どの子も伸びる　どの子も伸ばす」をキャッチフレーズとして教育活動をスタートした。児童がこれからを幸せに生きていくためには、「自分と向き合う力」「人とつながる力」を育てることが大切だととらえ、重点的に取り組みを進めていく。

昨年度は全体的には児童は落ち着き、学習活動に積極的に取り組む姿が見られ、これまで全教職員で取り組んできた教育活動の成果を実感できた。しかし一方で、児童の中でいじめととらえられるトラブルやもの隠しなどの事案が複数件起り、人権を大切にした取り組みの重要性を再認識した。また、不登校や精神的な閉塞感を抱える児童もおり、一人一人の児童に寄り添った対応が必要となっている。

学校全体を見ると、約 3 年間のコロナ下での教育活動や大きく変化する社会状況を受けて、これまで対応してきた教職員の疲弊感の大きさを感じる。そこで、児童の安全・安心感だけに着目するのではなく、教職員が安心して働く職場環境改善こそ重視して取り組んでいく必要がある。全教職員が全児童を見ていく、様々な業務も「協働」してみんなで取り組んでいくことで、教育的課題を乗り越えていきたい。保護者、地域住民にも学校教育を支える当事者意識を持って関わっていただきたいので、学校からの情報発信にも工夫する。

学力・体力の向上に関しては、「探求」する学習活動を重視し、主体的に学ぶ姿勢を養っていく。また、ＩＣＴの効果的な活用を積極的に進めていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。（R 4 年度 77.8%）
- 令和 7 年度校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% にする。（いじめ解消：いじめ行為が止んでいる状態が 3 か月継続・被害者が心身の苦痛を受けていない）（R 4 年度 98%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における平均標準化得点を 102 点以上にする。（R 4 年度 100.7）
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を、男女とも全国平均以上で維持する。（R 4 年度男子 55.73 全国平均 52.28 女子 54.42 全国平均 54.31）

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100% にする。
- 令和 7 年度の時間外勤務時間の累計平均を校種別平均より少なくする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。（R4年度84.7% 全国83.9%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○校内アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より増加させる。（R4年度88.7%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を47%以上にする。（R4年度4学年平均45.5%）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。（R4年度国語3年73.6、4年69.7、5年72.8 算数3年75.6、4年68.7、5年59.5）
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。（R4年度4学年平均80.0%）
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。（R4年度4学年平均75.1%）
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。（R4年度4学年平均70.9%）

学校園の年度目標

○令和5年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和4年度より減少させる。（R4年度3年8.1%、4年11.2%、5年13.7%）

○令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の「20mシャトルラン」の平均記録を昨年度より向上させる。（R4年度男子45.36 全国45.92 女子29.74 全国36.97）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

学校園の年度目標

- ・2年生以上は学習者用端末を活用した学習を週3回以上実施する。
- ・学習者用端末月間平均活用率を52%以上にする。（R5.2月で50.3%）
- ・時間外勤務時間を前年度よりも減少させる。（R4年度2月時点累計28時間53分）

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立高倉小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 86%以上にする。(R4年度 84.7% 全国 83.9%) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <p>○校内アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より増加させる。(R4年度 88.7%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>●いじめ事案など児童について必要な情報を全教職員で共通理解する場を設け協力して対応することで、学校生活を楽しく充実したものにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で児童理解の場を年間3回以上設けたり、SKIPによる日常的な情報共有を活性化させたりすることで、重要な情報について全教職員で情報共有する。 ・必要な対応があれば、関係諸機関との連携も含め迅速に進める。 	
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>●違いを認め合い、自分も友達も大切にする人権教育を各学年で進める。</p> <p>・人権教育の年間指導計画を活用して、各学年の実態に応じた取組を実践する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で、肯定的回答率を80%以上にする。(R4年度経年調査では 78.5%) 	
<p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>●「防災」「減災」教育に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災に関わる授業を年間1回以上実施する。 ・防災マニュアル（警備及び防災の計画）の活用日を学期1回設け、緊急時の教職員個々の役割や全体の動きを確認する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立高倉小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 47 %以上にする。(R 4 年度 4 学年平均 45.5%) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント 向上させる。(R 4 年度国語 3 年 73.6、4 年 69.7、5 年 72.8 算数 3 年 75.6、4 年 68.7、5 年 59.5) ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 81 %以上にする。(R 4 年度 4 学年平均 80.0%) ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77 %以上にする。(R 4 年度 4 学年平均 75.1%) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 72 %以上にする。(R 4 年度 4 学年平均 70.9%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和 5 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 4 年度より減少させる。(R 4 年度 3 年 8.1%、4 年 11.2%、5 年 13.7%) ○令和 5 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の「20m シャトルラン」の平均記録を昨年度より向上させる。(R 4 年度男子 45.36 全国 45.92 女子 29.74 全国 36.97) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>●学力向上に向けて授業力向上に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の「ふりかえり」を意識した授業を進める。 ・学級で話し合う活動を効果的に取り入れる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関わる研修会を年間 6 回以上実施する。 ・学習の「ふりかえり」や話し合う活動を取り入れて、各教員が自身の研究を主とした公開授業を年間 1 回以上おこなう。 	

取組内容⑤【5 健やかな体の育成】

- 児童の体力・運動能力の向上に向けて、体育科学習の充実を図ったり、運動や遊びの環境を整えたりする。
 - ・年間3回以上体育的行事を実施し、運動に親しむ機会を設ける。また、がんばりカード等を活用して振り返りを行い、運動に対して意欲が高まるようにする。

指標

- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査の「1週間の総運動時間数」を昨年度より上回るようにする。(R4年度5年男子782.4分 女子291.5分)

取組内容⑥【5 健やかな体の育成】

- 児童の発達段階に応じた健康に関する指導を推進し、日常より基本的生活習慣について徹底するように取り組む。 (健康に関する現代的課題への対応)

指標

- ・学校アンケート「朝食を毎日食べていますか」の肯定的回答率90%以上を維持する (R4年度経年調査94.7% ※最も肯定的な「している」は83.6%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立高倉小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校) <input checked="" type="checkbox"/> 学校の年度目標</p> <p>○2年生以上は学習者用端末を活用した学習を週3回以上実施する。</p> <p>○学習者用端末月間平均活用率を52%以上にする。(R 5.2月で50.3%)</p> <p>○時間外勤務時間を前年度よりも減少させる。(R 4年度1月時点累計平均28時間54分)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑦【6 教育DX デジタルトランスフォーメーション】</p> <p>●学習者用端末を学習で効果的に活用する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を年間5回以上持ち帰って家庭学習で活用する。 ・情報モラル教育実践を各学年で年間1回以上おこなう。 	
<p>取組内容⑧【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>●教職員全員の「協働」を重視して、余裕を持って働く職場環境改善を進める。</p> <p>・週1回の「早く帰るDAY」を設定し、その日は、遅くとも午後6時までには退勤する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間基準1(1か月45時間以内、1年間360時間以内)を満たす教員の割合を増加させる。(R 4年度2月時点44.68%) 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	